

平成 27 年 3 月 31 日

平成26年度総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 (該当に○)	海外共同 ・ 共同研究 ・ 個人研究	
研究代表者氏名 所属職名	福嶋伸洋 文芸学部 専任講師	
研究課題名	越境から往還へ～グローバル化時代における文学の創作・流通・受容の諸相	
研究分担者氏名	所属職名	役割分担
奥彩子	共立女子大学・文芸学部・准教授	ヨーロッパ地域
鵜戸聡	鹿児島大学法文学部・人文学科・准教授	アフリカ地域
研究期間	平成26年4月1日 ～ 平成27年3月31日	
海外共同研究を実施することになった経緯 (海外共同のみ)		
研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書 福嶋伸洋「鏡 espejo と反映 reflejo」、『迷宮』第11号、ボルヘス会、2015年4月刊行予定		

研究実績の概要（1）

本研究では、グローバリゼーションが加速する現代において、文学の創作・流通・受容が、20世紀に顕著であった越境／亡命といった一回性・一方向の流れから、複数性・双方向・多方向の流れへと変容している点に着目した。

今年度の主たる活動としては、研究会活動と資料の収集があげられる。

まず、研究テーマの広さから、10数名による研究会を組織し、平成26年度には三回の研究会を行った。

第一回研究会（5月17日・共立女子大学）：東欧の文学（奥彩子、阪本佳郎）

第二回研究会（7月27日・鹿児島大学東京リエゾンオフィス）；ロシアの文学（古川哲）

第三回研究会（9月16日・共立女子大学）：北欧の文学（中丸禎子）、イランの文学（中村菜穂）

多様な地域の研究者との議論を通して、世界の文学を考えるうえで、「島嶼性」と「オラリティ」の二点が具体的な課題が浮かび上がってきた。共有すべき資料のリストアップを行い、奥が中心となって資料収集を行った。

また、福岡は「第一回世界文学・語圏横断ネットワーク」（9月22-23日・立命館大学）で、「リオデジャネイロの堀口大學」と題した研究発表を行った。鶴戸は、国際シンポジウム（1月24日・パリ日本文化会館）にて「*Le copillage du sujet chez Kateb Yacine: l'écriture archipelagique, ou la cosmographie comme "utsushi"*」（Colloque international: Berceau du temps, Passage des âmes, Maison de la culture du Japon à Paris）と題した研究発表を行った。